令和５年度　学 校 経 営 要 綱

太宰府市立太宰府西中学校

１　学校経営の基盤

（１）公教育としての原則

日本国憲法、教育基本法及び学校教育法に示された教育の理念に基づき、学習指導要領に準拠した教育課程、福岡県教育施策実施計画、太宰府市教育施策要綱・学校管理規則に則り公教育を行う。

（２）現代社会の要請と教育の動向

変化の激しい現代社会において、国の教育振興基本計画の方針を踏まえ、知識基盤社会の中で、豊かに生きる力をもち、日本の将来を担うに足る生徒を育成する。そのために「令和の日本型学校教育」の構築をめざす。

（３）信頼される学校づくり

これまでに培われてきた良き校風と伝統を受け継ぎ、保護者・地域の期待に応えるとともに、社会の変化に主体的に対応できる「徳・知・体の調和のとれた生徒」を育成する。

また、コミュニティ・スクール及び国際理解教育の推進をとおして、社会全体の教育力向上に寄与する。

２　学校の教育目標

「自ら輝き、成長を続け、なかまと共に心身逞しく、未来を創造する生徒の育成　」

校 訓 「自 律・協 調・実 践」

自律…「見つめる心」（知）　協調…「思いやる情」（徳）　実践…「やりぬく精」（体）

（１）めざす生徒像

①　目的をもって主体的・協働的に学び、よりよい生き方を求める生徒　【自律】
②　自然や郷土を愛し、自他の個性・人権や礼節を尊重して伸びようとする生徒【協調】
③　勤労と不断の努力を尊び、豊かでたくましい心身の健康づくりに努める生徒【実践】

（２）めざす学校像

①　明るい活気と向学心に満ち、秩序と規律のもと、学びの環境が整っている学校【自律】
②　学校・家庭・地域が信頼と尊敬をもって連携・協働し、地域と共に伸びる学校【協調】
③　一人一人が大切にされる創意工夫のある教育活動を実践し、子どもが育つ学校【実践】

（３）めざす教師像

①　率先垂範・師弟同行を心がけ自己研鑽に励み、常に自己成長を続ける教師　【自律】
②　生徒理解のもと、温かくかつ厳格公平に指導し、誰からも信頼される教師　【協調】
③　教育への情熱と使命感をもち、組織の一員として教育目標の具現化に努める教師【実践】

３　教育課題・経営課題

（１）教育課題

①　相手を思いやる豊かな心
②　確かな学力の向上と学びに向かう実践力
③　心身の調和がとれた健やかな成長
④　郷土を愛する気持ちと実践力の育成

（２）経営課題

① 個々の教師の指導力量向上

② 組織的な取組とさらなる連携

③ 地域と連携し、社会に開かれた学校の創造

４ 経営の基本方針

（１） 公教育の立場に立ち、学校のあらゆる場面で中学生として調和のとれた人格の形成をめざす

（２） 組織としての機能的な校務運営を図る

（３） 家庭・地域と連携し、開かれた学校、地域・家庭に愛される学校づくりに励む

５ 本年度の経営の重点

（１）重点目標

思いやりと向上心をもち、自分を成長させ、輝こうとする生徒の育成

思いやりの心をもち、自他を尊重できる生徒 【徳】
確かな学力の定着をめざす生徒 【知】
心身の調和がとれた健康な生徒 【体】
地域を愛し、地域で活躍する生徒 【郷土愛】

太宰府西中学校の生徒は明るく人懐っこく、前向きに楽しく学校生活を送っている。全体的に落ち着いた生活態度である。およそ９０％弱の生徒は「学校が楽しい」と回答している。一方、思いやりに欠ける言動が時折見られたり、交友関係を広げることを苦手としたりする生徒もいる。学力的には年度による差が多少あるもののおよそ福岡県の偏差値では５２～５５である。

このような実態をふまえ、令和４年度は「思いやりの心を育てること」と「基礎・基本の定着」の２つに重点を置き、諸教育活動を行った。「思いやりの心」については、急に変化するものではないが、令和４年度の学校全体の雰囲気は温かく感じることが多かった。しかし、若干、友達に対して配慮に欠ける言動が見られることがあった。

学習の取組についてはまず、教師の授業づくりに関して、日常の授業改善に取り組んだ。年間で一人３回の公開授業を行ったことで、気軽に授業交流をするようになった。授業改善は進んだが、「協働的な学び」や「振り返り」については、まだ改善の余地がある。また、家庭学習の改善にも取り組んだが、自学ノートの活用を工夫し、家庭学習が定着した生徒と、ノート提出がせいいっぱいで、改善が見られない生徒がおり、個々による差が大きく、成果が十分に上げられたとは言い難い。そのため、学力向上の取組は令和５年度も継続していきたい。

これらのことから、令和５年度は、令和４年度の重点的取組を継続、進化、発展させることを基本とする。具体的には、「思いやり」の心を育てることと「学力向上のためのわかる授業づくり」をめざすことの２つに重点に置く。思いやりの心を基盤とし、お互いを認め合い、尊重し合う集団づくりと、確かな学力の向上の２つの柱を重点として取り組み、諸活動をとおして、思いやりがあり、自分をさらに高めようとする生徒の育成をめざす。

目標達成のための基本的な考えとしては昨年同様、①取組の基本は日常生活にあること、②教師の姿、教師の人間性こそが一番の手本・教科書であること、③それぞれの教師が個々にもつ良さを生徒に注ぎ込み、個の力を集結して生徒を育てること、④教師の共通認識のもと、組織的な教育活動を行うこと、の４つとする。本校教師の人間性や指導力量こそが最大の財産であり、課題解決のための原動力であると考える。日常生活の１つ１つ

の小さな教育活動を丁寧に積み重ねる指導をとおして重点目標の達成をめざし、「輝く太西生」を育成していきたい。最終的にめざす目標は、「西中大好き生徒１００％」である。

☆「思いやりの心」とは

周りの人の気持ちに気を配り、相手を安心させたり、楽しくさせたり、心地よくさせたりするなど、温かい言動で接する心とする。

【評価】生活アンケート１．４．５．15．17.　いじめ事案０件

☆「学力向上」とは

学力向上を、以下の項目に基づいて授業や取組を行うこととする。

・授業をとおしてわかるようになったり、できるようになったりした【授業評価④】
・授業に意欲的に取り組んだ【授業評価④】
・授業で学んだことを振り返ったりまとめたりすることができた【授業評価④】
・家庭学習時間の増【生活アンケート⑨】
・自分の学力向上を実感【生活アンケート⑫】
・諸テストにおいて同時期前年度から１ｐアップ【諸テスト】

☆「わかる授業」とは

わかる授業は、以下の項目で授業づくりをすることとする。

・本時のねらい（めあて）が明確で、見通しをもつことができる
・主体的な活動と協働的な学びがある授業
　本時の課題に対して、まずは自分でしっかりと考える時間がある
　次に協働的な学びをとおして、考えを深める時間がある
・授業の終末で「分かった」「できた」と達成感を感じることができる授業
・授業の最後に、考えをまとめたり、振り返ったりする
　わかったことやできたことを整理する、自分の学習状況を振り返る

☆「西中大好き生徒」とは

太宰府西中学校を愛し、思いやりの心と学力に対する向上心をもって、自ら学校生活を充実させようとする生徒。学校が安心・安全な場所であると感じ、学校における諸活動に意欲的に取り組もうとする生徒。

【評価】生活アンケート３．６．17.

（２）具体的な生徒像（めざす生徒像）

・豊かな人権感覚をもち、自分の価値を認め、他者の多様性を受け入れる思いやりがある生徒
・自ら学ぶ意欲をもち、見通しをもって計画的に学習に励み、基礎基本の習得をめざす生徒
・心身ともに健康で、学校生活を明るく前向きに過ごし、学校生活を充実させることができる生徒
・地域行事等に積極的に参加・参画し、地域のために意欲的に活躍する生徒
・将来、社会で活躍するための基礎や土台となる力や心を育もうとする生徒

（３）重点目標達成のための経営の重点

①　十分な生徒理解に努め、人間関係の構築を図る

・生徒と共に学校生活を送るなかで生徒理解に努め、さらなる人間関係構築をめざす
・生徒の良さを認め、さらに伸ばすことができるよう、指導・支援を行う
・生徒の課題を把握し、適切な指導・支援により課題解決を図り、生徒の心身の成長につなげる

②　自他を思いやる豊かな心の育成

・自分や他者の良いところを認め合う。自分や他者の個性や課題を受け入れる

・日常生活のあらゆる場面において、生徒が自他を尊重し思いやる言動をとることができように、指導をする
・教師の言動が生徒の豊かな心の醸成に大いに影響を与えることを自覚し、教師の日常の言動が生徒の思いやりの心の育成につながるように努める
・学校生活のあらゆる場面で生徒の道徳性を養う
・道徳チームローテーションを編成し、道徳教育の充実を図る

③　自他を尊重する人権教育の推進

・日常生活において、生徒の人権感覚を高める指導を行う
・本校９ヵ年カリキュラムにのっとり、人権教育を推進する
　系統的な人権教育、人間関係スキルカリキュラム、
　人権に視点をあてた社会科カリキュラム

④　特別支援教育の充実

・特別支援学級開き等をとおして、個を理解し、個を尊重する態度を養う
・交流学級や諸行事等の活動をとおして、社会性や自立する力を全教員で養う
・特別支援学級の授業応援や休み時間の教室訪問等を実施し、全教師が特別支援学級の教育活動に参加する
・特別支援教育推進委員会の開催をとおして、全職員の共通理解を図る

⑤　確かな学力の定着・向上を図る

・新学習指導要領がめざす学力を定着させるための、日常の授業の改善を日々意識する　→ 日常の授業改善こそが、学力定着・向上の最大の方策である
・各教科における指導目標や３つの柱をもとに、基礎学力の定着のための学習指導を行う
　ア．何を理解しているか、何ができるか（知識・技能）
　イ．理解していること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力）
　ウ．どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力・人間性等）
・確かな学力の定着・向上のための共通認識を図り、共通実践を行う。そのために、朝学習と家庭学習、生活ノートを関連させ、学校と家庭学習をつなぎ、日々の家庭学習の充実を図る
・全ての生徒が「わかった」「できた」と言えるよう、ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくりに励む

⑥　確かな学力定着・向上のための校内研修推進

・年３回の授業公開をとおして、教師の授業力量を高める
　ア．年間３回、公開授業を実施する
　イ．授業者は、本時授業参観用紙（主眼・手だて等）を作成する
　ウ．授業後に、協議会等を行う
　エ．各教師が、少なくとも年間３回は他の先生の授業を参観する
・年間３回の授業公開のポイントは以下のとおりとする
　前　期：基本的な授業技術の確認
　中期１：学力定着のための授業公開（「協働的な学び」と「振り返り活動」の実践）
　中期２：学力向上のための授業公開（「協働的な学び」と「振り返り活動」の深化）
・「協働的な学び」と「振り返り活動」の充実を図る
・個々の学力実態に応じた「個別最適な学び」を設定する
・研究推進委員会から、校内研修について定期的な発信をする

⑦　**生徒会活動と学校経営の連携**

・生徒会活動を全職員で支援し、生徒会活動を活発にする
・生徒会活動と関連分掌が連携をし、活動の充実や深化を図る

⑧　**ＩＣＴ機器の有効活用**

・授業等において、ＩＣＴ機器の有効活用を図る
・目的と必要性のあるＩＣＴ機器活用をめざす
・オンライン配信を様々な場面で活用する
・効果的なＩＣＴ機器活用法について、職員間で共有する場を設定する

⑨　**主幹教諭を軸とした校務分掌の活性化と校内ＯＪＴの推進**

・教育課程担当主幹教諭と生徒指導担当主幹教諭を軸として、校務分掌の活性化と評価・改善を図る
・主幹教諭を中心として、校内の人材育成促進を図る

⑩　**コミュニティ・スクールの推進**

・地域に開かれた学校づくりをめざす
・西中ブロックの小中連携を図る
・「にしの日」や「まほろば活動」等、地域に関わる活動を充実させる
・地域貢献活動等をとおして、将来、地域や社会で活躍しようとする意識を高めさせる
・太宰府市教育委員会と連携し、「ふるさと学習」や「ふるさと夢プロジェクト」を推進する